

東 風

第20号

平成16年 9 月

「節目10年！ 教師の研修の拠点として」

島尻教育研究所 所 長 金城 弘一

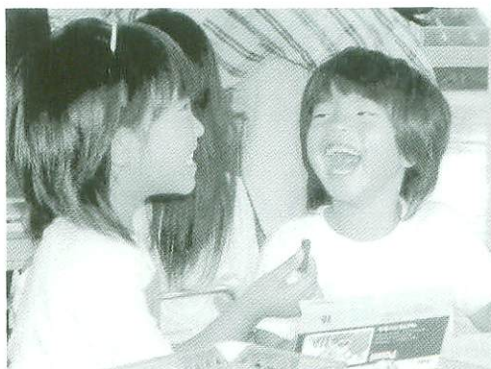
随想「ゆとり」

島尻地区校長会 中学校会長 垣花 義孝

□ 実践事例紹介

島尻教育研究所 第20期 教育研究員

- 後期事業計画 ○ 創立10周年記念事業 ○ 幼稚園教頭・主任等研修会
- 短期研修講座 ○ しのめ教室から ○ 長期研修を終えて



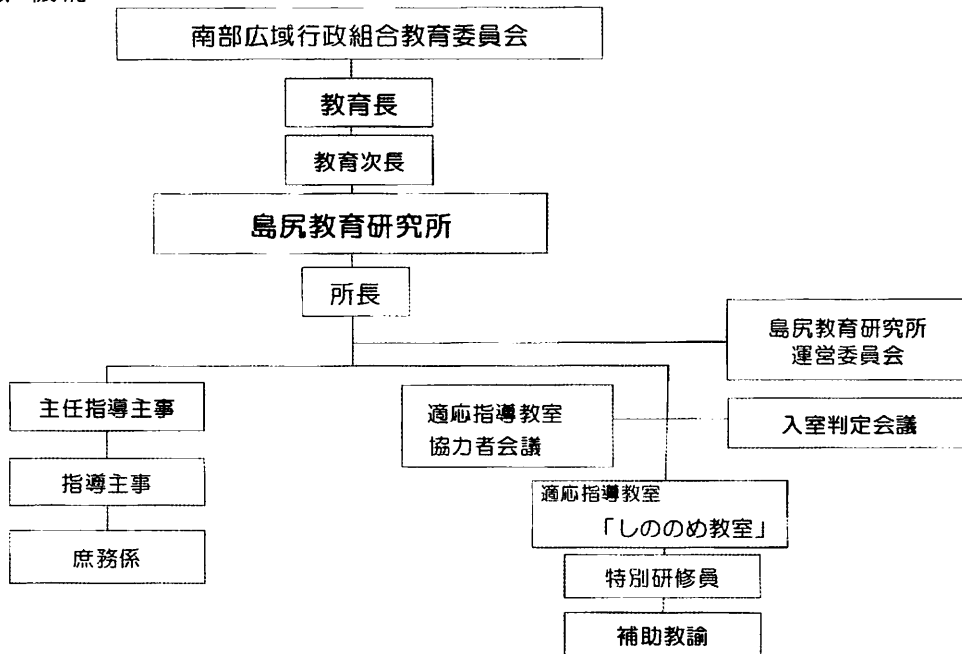
南部広域行政組合
島尻教育研究所

● 設置の目的

教育に関する調査・研究及び教育関係職員の研修を行い、資料提供並びに教育相談等の事業を通して、島尻地区における教育研究の中核的存在とする。

● 組織

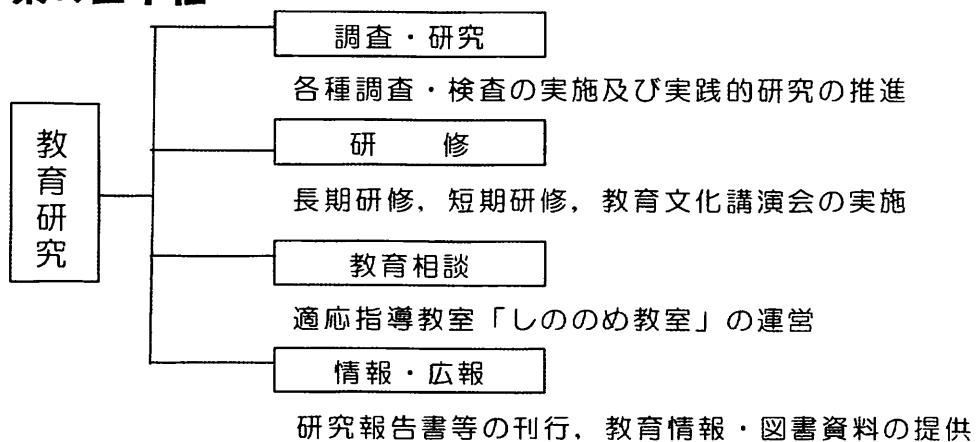
1 組織・機構



2 所員

所 長	金城 弘一	しのめ教室担当	
		特別研修員 補助教諭	大城 直樹 山内 修子 立津 ゆかり
主任指導主事	安谷屋守松		
指導主事	甲斐 英児	庶 務	宮里 紀子

● 事業の四本柱



目 次

「節目10年！ 教師の研修の拠点として」	
島尻教育研究所 所長 金城 弘一	1
随想「ゆとり」	
島尻地区校長会中学校会長 垣花 義孝	2
1 平成16年度後期事業計画	3
2 創立10周年記念事業	4
3 平成16年度 幼稚園教頭・主任等研修会	5
4 平成16年度短期研修講座	
(1) 幼稚園コンピュータ実技研修会	6
(2) 小中コンピュータ実技研修会（初級・中級）	7
(3) 幼稚園教育講座	8
5 しなのめ教室から「教育現場で使えるカウンセリング実践講座」	
適応指導教室「しなのめ教室」 特別研修員 大城 直樹	9
6 研究員実践事例紹介（第20期教育研究員）	
(1) 糸満市立糸満南幼稚園 教頭 登 紀美	10
(2) 糸満市立光洋小学校 教諭 宮城美智子	11
(3) 糸満市立糸満南小学校 教諭 古堅みさえ	12
(4) 大里村立大里南小学校 教諭 土居 徹	13
(5) 豊見城市立長嶺中学校 教諭 松下 啓子	14
(6) 具志頭村立具志頭中学校 教諭 上原 淳	15
7 長期研修を終えて	
第20期教育研究員委員長 上原 淳	16
8 島尻教育研究所 逍遙歌	17



節目10年！教師の研修の拠点として

島尻教育研究所
所長 金城 弘一

教育は、子供たちにいかに感動を与えるかが大切です。知ることの喜び、分かることの楽しさ、できることの自信が子供たちに希望をもたせ、夢を抱かせます。このような夢と希望は、教師の豊かで、的確な指導力によって花開きます。そのために教師はつねに、資質能力の向上を図り、感性を磨き、それをより高いものにしておかねばなりません。

文部科学省は、平成14年12月小中学校教育実施状況の結果を公表しました。それによると、平成13年度までの学習指導要領の目標、内容に照合して、全体としてはおおむね良好と考えられています。しかし、教科等によっては十分でない部分も見られました。ただし、発展的な学習や補充指導などの工夫をこらした指導を受けた児童・生徒ほど得点が高くなっているようです。

課題としては、「勉強は大切と思うが、好きではない。」「授業の理解度が高くない。」「学ぶ習慣が身についていない。」等が明確になりました。

これらの教育課題に対応するため、教師は進展する社会や教育内容、方法に対応して専門性を磨く必要があります。そのための教師の研修を支援する研究機関の整備充実が求められています。

島尻教育研究所は、平成6年4月に教師に研修の場と機会を提供するとともに、教師の教育活動を支援する機関として開設されました。創立以来、島尻管内教師の実践的指導力の向上を図る等の設立の趣旨を踏まえ、事業の柱である調査・研究、研修、教育相談、情報・広報等を推進して参りました。長期研修は、管内教師を年間15名受け入れ、前期と後期に分けて教科等テーマを設定し研究に取り組んでいます。修了者は、学校現場で教育実践の中核となって活躍しています。調査・研究は、管内の教育課題に対応した実践的研究や教員の意識調査を行い、その研究成果を実践事例集にまとめ、管内幼・小・中学校へ配布しています。短期研修は、より身近で実践的な課題に関する研修会として、情報教育講座、幼稚園教育講座、幼稚園教頭等講座を開催してきました。参加者の研修意欲は内容を深まりのあるものにしました。教育文化講座は、著名な講師をお招きし新しい教育、今日的な課題をテーマに開催して教育実践に多くの示唆を与えました。教育相談事業は、平成15年度から文部科学省の委託事業の指定を受け、不登校対策のためのネットワークづくりSSN(スクリング・サポートネットワーク)整備事業を推進しています。その事業を通して、心因性不登校児童生徒に関わる教師や教育相談員の実践的指導力を高めることによって、一人一人の自立に向けた支援を行い、一定の成果を得ています。

節目10年、先輩諸氏が築いて下さった伝統を大切に、基礎的な研究はもとより、先進的な課題にも挑戦するなど教師の研修の拠点として、一層の充実発展を期して努力していく所存であります。



随想 「ゆとり」

島尻地区校長会中学校会長

垣 花 義 孝

イギリスの名宰相といわれたチャーチル首相は重要な会議がある日は、朝早く下院に行き特別な部屋にこもって「瞑想」したといわれる。ケネディ大統領は部屋に入り、カセットに録音したギリシャ時代の詩人の詩を聴きながら、自分もそれに合わせて口ずさんで心を落ち着け、瞑想したといわれる。我々凡人は喫茶店や自宅の部屋で名曲を聴きながらということになるのだろう。重要なことを決断する場合は、時間的に余裕をもって、頭の方もベストのコンディションの状態にして熟慮することが重要である。(森隆夫：校長のリーダーシップ学)

今「ゆとり」ということばが教育現場でも頻繁に出てくる。「ゆとり」が人によっていろいろに解釈され、批判や混乱を招いているようである。私は「ゆとり」とは、時間的ゆとり、心のゆとりが本来のゆとりであり、それが考えるゆとりにつながらうと思うのである。即ち、思考するためのコンディションづくりである。

学校は週5日制と同時に指導要領の改訂で、週授業時間数が減り、総合的な学習の時間の新設、中学校の場合、選択教科の幅が拡大された。そのことは、教員の週時間割の中での持ち時数が増え、自由に活用できる時間が減ることになる。総合学習や選択教科の場合、教科書があるわけではないので、カリキュラムの編成や教材の準備に相当の時間を要する。したがって、時間的にはゆとりが減ったといわざるを得ない。生徒にとっては、教科の内容が減った分、ゆとりが出たと言えるかも知れないが、学力低下を懸念する声も巷で上がっている。

このような現状の中で、教師達は、子ども達の将来をしっかりと見据えて、今、何をどう教えるかを熟慮することができるだろうか。考える時間のゆとりと心のゆとりをどう見いだせばよいだろうか。

・・・休憩・・・

時間的ゆとり。これは非常に難しい問題である。仕事の内容を分類し、しなければならないことは、要領よく迅速に処理すること。どうせやらなければいけないのだったら、さっさとやってしまうこと。次に、選択できるものは精選することも必要だろう。そうすることによって、自分の時間の「ゆとり」を作り出すことができる。

心のゆとり。これは、勿論、時間的ゆとりがあって、生まれるものであると思う。意識して職務から身も心も離れることがいい。例えば、文化的な活動やスポーツ活動をすることは、それ自体ストレスの発散にもなるが、他の職種や異年齢、異性との交流も、心のゆとりになる。芸術文化を鑑賞したり、大自然の中に身を置くことも、心のコンディションを整え、正しい思考…判断を可能にするだろう。

社会の技術的な発展は、人間の生活にある意味では豊かにしたが、人間の心のゆとりを奪ったように感じられる。今、私たちは自分の手で、本当の「ゆとり」を取り戻すことを考えていかなければならないと考えるこのごろである。

後期事業計画

月	日	曜	行 事 名
10	1	金	後期（第21期）教育研究員入所式14:00-，指導講師委嘱状交付式
	5	火	平成17年度教育研究員募集要項等発送
	18	月	研究計画検討会
	22	金	第2回 しのめ教室入室式
	25	月	理論研究項立て検討会
11	5	金	平成17年度教育研究員申込〆切（教育委員会）
	12	金	平成17年度教育研究員申込〆切（教育研究所）
	17	水	第4回 学校現場で使えるカウンセリング実践講座
	26	金	理論研究内容検討会（～29日）
	30	火	平成17年度教育研究員決定通知発送
12	16	木	後期検証授業・保育 前半開始～12/22
	28	火	南部広域行政組合 仕事納め
1	4	火	南部広域行政組合 仕事初め
	13	木	第5回 学校現場で使えるカウンセリング実践講座
	18	火	後期検証授業・保育 後半開始～1/21
2	10	木	教育講演会（シュガーホール）永田繁雄氏（文部科学省教科調査官）
	16	金	研究報告書検討会（～18日）
	23	水	平成16年度 実践事例報告会（しのめ教室）
3	9	水	しのめ教室 終了式 16:00-
	16	水	研究報告会13:30-
	18	金	平成17年度前期教育研究員オリエンテーション15:00-
	23	水	第21期教育研究員修了式15:00-，第3回運営委員会13:30-
	31	木	南部広域行政組合 離任式

※ 行事の期日については、若干の変更もありますのでご了承ください。

創立10周年を盛大に祝う

-創立10周年記念事業-

島尻教育研究所は今年創立10年目を迎え、8月12日に記念講演、記念式典、記念祝賀会を開催いたしました。当研究所は、平成6年の開所以来、多くの人々に支えられ、島尻管内の教育研究の中核的存在として、調査・研究事業、研修事業、教育相談事業、情報・広報事業に取り組んで参りました。当研究所を修了した教育研究員も141名を数えます。修了生はそれぞれの部署で、島尻管内の教育をリードすると共に学校のリーダーとして活躍中です。

記念講演

演題「テレビが変わる」
～デジタル放送時代を迎えて～

記念式典に先立ち、午後1時30分よりNHK沖縄放送局長の川端義明氏による記念講演がありました。川端局長は、連続テレビ小説の「ちゅらさん」制作時の裏話を披露したり受信者との双方向の情報交換が可能なデジタル放送がもたらす様々な利点について、プロモーションビデオを使いながらわかりやすく解説しました。



講師：川端義明氏

記念式典

労働者へ感謝状贈呈

記念式典は、南部振興会の金城豊明会長や島尻教育事務所の大城侑所長をはじめ、多数のご来賓のもと挙行されました。その中で島尻教育研究所の設立や基盤作りに寄与された9名の方々に対し、感謝状と記念品が贈られました。開所当時の教育長としてご尽力いただいた津嘉山清氏は残念ながら故人となられたため敏子夫人が代わって受け取られました。



労働者のみなさん（前列）

喜名盛文氏	比嘉恒雄氏	志喜屋新孝氏	上原宜成氏	津嘉山清氏	島袋朝徳氏	宮城恒彦氏	當山徳有氏	金城政安氏
-------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

記念祝賀会

盛大に祝賀会

祝賀会は、会場を万座の間に移し、約200名の参加者が10周年の節目を祝いました。沖縄では恒例の『かぎやでふう』の舞で幕が開き、比嘉泰男島尻校長会小学校会長の乾杯の音頭のあと、約2時間の祝宴が続きました。会場には、第1期から20期の研究員がそろい、旧交を温める姿も見られました。また、余興として琉球舞踊や三線演奏などが披露され、華を添えました。



【クラブの時間に習得した『安波節』の三線演奏をする18期～20期の研究員のみなさん】

幼稚園教頭・主任等研修会

期日：6月9日～10日
場所：南部総合福祉センター

～研修テーマ～
時代に対応した幼稚園教育に向けて

ー研修プログラムー

講 話「幼稚園教育のめざすもの」(県立総合教育センター：松田恵子指導主事)
実践発表「園を運営する教頭の役割」(糸満南幼稚園：野波トシ園長)
研究協議「教頭として、園運営をどのように進めていくか」
情報交換「開かれた幼稚園の取り組みの現状と課題について」

平成13年度から実施された「幼稚園教頭・主任等研修会」も今年4年目を迎えました。その間、幼稚園では子育て支援の一環として預かり保育が始まり、一方、各市町村の財政難から、研修会への旅費を支給できない自治体も増えてきました。このような現状を踏まえ、この研修会もこれまでの宿泊での研修会を見直し、日帰り2日間の日程に変更しました。しかし内容は、これまで以上に充実したものになりました。



講師の松田恵子指導主事



【教頭の役割について熱く語る野波トシ園長】



【講話では、松田指導主事より、幼稚園教育の現状と今後の在り方について、幼児教育振興プログラムをもとに説明がありました。】



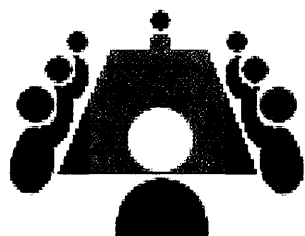
【実践発表の中から園長との連携の在り方など課題解決の糸口を探そうと真剣な表情で話に聞き入る教頭・主任のみなさん】



【2日間の分科会では、日頃、教頭として抱えている悩みや園の課題について時間を忘れ本音で討議しました。】



【今回は各分科会に、園長を1人ずつ配置しました。教頭への的確なアドバイスが得られ、協議が深まりました。】



今回の研修会では、台風4号の接近により、船の欠航が相次ぎ、残念ながら離島の幼稚園は参加できせんでした。今回の研修の成果は、「研修のまとめ」として各教育委員会および幼稚園へ配布しました。今後の取り組みに向けて活用していただきたいと思います。

ご協力いただいた講師、指導助言者、園長の皆様に心より感謝申し上げます。

短期研修講座 指導力 UP!

毎年、好評を得ている夏休みの短期研修講座では、今年度も多くの受講者が2日間の研修に励みました。今年は、新たに「幼稚園コンピュータ実技研修」を増設して、現場のニーズに応えるようにしました。

コンピュータ実技研修

(1) 幼稚園コンピュータ実技研修

(2) 小中コンピュータ実技研修

① 初級コース ② 中級コース

その1 《 幼稚園コンピュータ実技研修 7/21~22 》

ねらい: ワードプロソフトを使って園だよりが作れるようになること

内 容: ワードプロソフトを使った文書作成
飾り文字、絵や写真の挿入方法など



【現場の教師が講師となって、一人一人に丁寧に指導しました。】

今年度、新たに開設された「幼稚園コンピュータ実技研修」には、20名の定員に対し26名の応募がありました。それで、6名は定員に余裕のあった小中コンピュータ実技研修の「初級コース」へ移っていただき、全員が受講可能となりました。

研修会場は前年度に続き、佐敷町の文化センター内にあるIT教室でした。この会場は少人数でコンピュータの研修を実施するのに適した場所です。受講者はこの静かな環境の中で、「2日間で園だよりを作れるようになるんだ」という強い意気込みで、研修に臨みました。



【だんだんソフトに慣れてくると、お互いで教え合う姿も見られるようになりました。】

講師の丁寧な指導のおかげで2日目の終了時には全員が、できたての9月の園だよりをおみやげに持って帰ることができました。

受講者の感想

- 初めてパソコンを使ってイラストやタイトル文字等の操作をしたが、丁寧に指導してもらい良かった。
- 普段の保育に役立つ、クラス便り、園だよりの作成を集中的に教えてもらい良かった。
- 教材が用意されていて、家に帰ってから再度見直すことができた。
- 20名の少人数に3名の講師だったので、ゆったりと自分のペースで研修できた。
- デジカメの活用の仕方を学べて良かった。(デジカメの便利性がわかった)
- スマイルブックを活用しての練習は良かった。(すぐに実践できるので嬉しい)

①初級コース

ねらい: ワードプロソフトを使って、学級だよりが作れるようになること
内 容: ワードプロソフトを使った文書作成(飾り文字、絵や写真の挿入方法など)

②中級コース

ねらい: 表計算ソフトなどを使って、学級事務ができるようになること
内 容: エクセルでの成績処理、パワーポイントでのプレゼンテーションなど

8月3日~4日にかけて、佐敷小学校のコンピュータ室と佐敷町文化センターのIT教室に分かれて、小中学校の教員対象に「小中コンピュータ実技研修」が実施されました。定員はそれぞれ20名でしたが、中級コースには定員を上回る32名の応募がありました。

当教育研究所では、受講決定に際しては、各市町村間や校種間の人数のバランス等を考慮しています。今回受講できなかった皆さんには申し訳ありませんが、次の機会に受講をお願いします。

初級講座では、ワードプロソフトを使った学級便りや学年便り作りに取り組みました。多彩な飾り文字で、見出しを飾ったりイラストやデジタルカメラで撮った写真を紙面に貼り付けたりして、それぞれに工夫を凝らしたお便りを作りました。

中級コースでは、表計算ソフトを使って、グラフの作成や簡単な成績処理ができるように理論と実技の研修を行いました。関数の貼り付けや並べ替え、抽出の仕方などやや高度なテクニックも紹介され、表計算ソフトの便利さに触れることができました。

また、2日目はプレゼンテーションソフトの操作方法を中心に研修が進められ、スライドの作成の仕方やアニメーションのかけ方など、授業でも活用できる実用的な技能を中心に習得しました。



【人のアイディアに思わず感動！】



【時間も忘れて没頭中！】



【困ったときは、いつでもお助け！】

受講者の感想

○ 初級コースから

- ・ 基本的操作の指導や現場で活用できる実習でよかった。
- ・ 2日間の研修で「出来るんだ」という実感を持つことができた。学校へ帰っても研修の成果を生かしていきたい。

○ 中級コースから

- ・ メニューをエクセルとパワーポイントに絞って研修できてよかった。
- ・ IF関数を利用することで、今後の事務能力がアップすると思う。

幼稚園教育講座

7/27～28
南部福祉総合センター

預かり保育の実施により、研修会への参加が厳しくなる中、幼稚園教育講座には、今年も81名の応募がありました。研究所では、原則として全員の受講を認めています。今回は、「カウンセリング」「実践事例発表」「講義」「実技研修」の4種類のプログラムを準備し現場で活用できるようにしました。

講 話「幼児理解と保護者との相談のしかた」

渡久地政順(沖縄キリスト教短期大学名誉教授)



渡久地先生は、幼児理解をする上でカウンセリングマインドが重要であることを、事例を交えながらわかりやすくお話ししました。

<受講者の感想から>

保護者とのコミュニケーションやカウンセリングの仕方など、とても勉強になった。

実践事例発表「地域に開かれた幼稚園づくり」

比嘉邦子・池田尚子(那覇市立泊幼稚園)



泊幼稚園は前年度から特色ある学校づくり支援事業の指定を受け「未就園児クラスの設置」「地域の人材活用・交流活動」などを実践しています。

<受講者の感想から>

先進園の実践を聞き勉強になった。本園も頑張りたい。

講 義「今、幼稚園で私たちにできること」



松田恵子(沖縄県立総合教育センター 幼児教育担当指導主事)

松田主事は幼児教育振興プログラム策定の経緯や教育課程の編成の視点や評価の在り方などについて資料をもとに講義しました。

<受講者の感想から>

沖縄の幼稚園教育の現状理解などとても勉強になった。

実技研修「レクレーション支援(ゲーム・ダンス)の実践」

嶺井奈々(育成保育カレッジ学院専任講師)



実技研修では、ゲームやダンスを習うだけではなく、コーディネーターとしての役割についても実習できました。

<受講者の感想から>

リズム・ゲームの実技はとても楽しく園の保育に生かせるように応用していきたい。

教育現場で使えるカウンセリング実践講座

ースクーリング・サポート・ネットワーク(SSN)整備事業ー



島尻教育研究所 適応指導教室「しのめ教室」
特別研修員 大城直樹

2004年8月に示された文部科学省の学校基本調査によると、2003年度の不登校生の総数は小学校が24,086人、中学校が102,126人で計126,212人となっています。これは、割合にすると中学は37人に1人と1クラスに1人いる計算で、小学校は300人に1人ということでした。

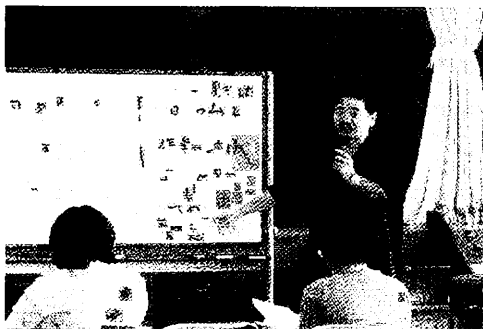
沖縄県では県教育委員会等のまとめによると、県内の不登校児童生徒の数は2003年度、小学校が337人、中学校が1,241人で計1,578人となっており、生徒全体に占める割合は、1.02%と4年連続で減少しました。不登校生の数は、まだかなりの数ですが、全国ではここ2年間で確実に減少に転じています。文部科学省のスクールカウンセラー配置等の取り組みや各学校での教育相談の組織体制づくり、地域における不登校対策の取り組みの結果だと思われます。

しのめ教室では、昨年度から文部科学省の委託研究事業の指定を受け、スクーリング・サポート・ネットワーク整備事業(SSN)の委託研究に取り組んでいます。SSNの事業2年目を迎えるにあたり、今年度4月から「しのめ教室」の担当として、前年度の取り組みを継続発展できるように頑張っていきたいと思っています。

SSNでは、「連携ネットワークによる支援」という視点から不登校への対応を行っていきます。今回は、「しのめ教室」のSSNの活動の1つである「教育現場で使えるカウンセリング実践講座」の取り組み状況を紹介します。

この取り組みは、不登校の問題に対応するために教育現場で使えるカウンセリングの基本的な考え方や技法を身につけるために開催しています。県内の第一線で活躍している先生方をお招きして講話・演習を行います。今年度は6月から全5回にわたって行う計画です。

第3回となった「ふれあいと気づき」の講座では、夏休み期間中にNPO日本教育カウンセラー協会上級教育カウンセラーの仲村将義先生をお招きして構成的グループエンカウンター演習を中心に行われました。当日は、小中学校の先生方と市町村の教育相談員合わせて50名あまりの参加がありました。



【グループエンカウンターについての理論的な説明を受ける。】



【エクササイズが終わった後のシェアリング(分かち合い)で気付いたこと、感じたことをお互いに述べあう。】

カウンセリング講座は、この後11月に「解決志向アプローチの技法」、1月に「エゴグラムの活用」を予定しています。多くの先生方のご参加をお待ちしています。



園内研修充実のための工夫

-身近な自然物を使った造形遊び-

糸満市立糸満南幼稚園教頭 登 紀 美

(1) 研究の概要

「身近な自然物を使った造形遊び」について、実技研修を取り入れた実践的な園内研修をすることで充実を図ってきた。

その結果、教材提示の大切や幼児理解の大切さなどが分かり、教師の実践的指導力が向上し、よりよい保育の提供につながった。

(2) 園内研修充実のための工夫点

- ① 全職員の共通理解を図り、実践的な課題に取り組む。
- ② 実技研修や理論研修を行い、話し合いを十分に行い実践に臨む。
- ③ 身近な素材である自然物の特色を生かす遊びを提示する。

(3) 指導の実際



【モタマナの葉で作った「こびと」のぼうしだよ！】



【松葉で作ったおすもうさん「がんばれ！」】

(4) 幼児の変容

- ① モモタマナの葉は、いつも土団子の皿であったが、教師が葉を縫い合わせて帽子を作り提示すると、幼児は、自ら帽子に飾りを付けて遊びが楽しくなる工夫をした。また、松葉など、素材のもつ性質を捉えてゲームを作り出したり競争したりするなど遊びに工夫が見られた。
- ② 形のちがう木の葉を、教師が意識的に示すことで、木の葉の形、大きさなどから素材の特徴を捉え、イメージを形として表現することができた。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 理論研修や実技研修をすることで、幼児理解が深まり、実践的指導力が高まった。
- ② 保育のねらいを達成するうえで、教材研究や教材提示の方法の大切さが分かり、園内研修への意識が高まった。
- ③ 園内研修をすることで、幼児のニーズにあった造形遊びの工夫をすることができた。
- ④ カンファレンスを多くもち、幼児一人一人に対する援助の方法を具体化し、実践していく。
- ⑤ 幼児の遊びの広がりを見通し、自然物の素材の生かし方など継続して研修を進めていく。

※詳細は平成16年度 研究報告書第20号【P1～P10】に掲載



伝え合う力を高める話し合う活動の工夫

－話材の選定や学習形態の工夫を通して－

糸満市立光洋小学校教諭 宮 城 美智子

(1) 研究の概要

伝え合う力を高めるために、「話す・聞く」の学習指導において、児童の興味・関心に合わせた話材の選定や、話しやすい場になるような学習形態の工夫を取り入れた。

(2) 指導上の工夫点

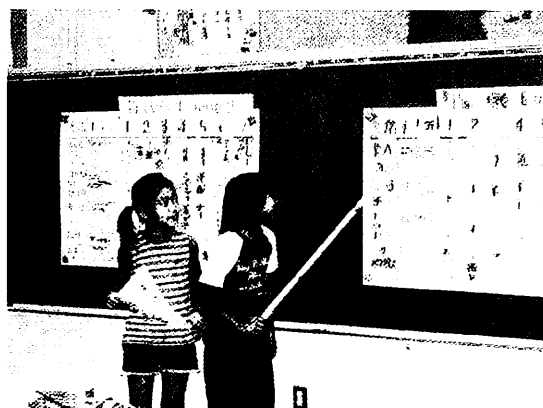
児童が話し合う活動において、自分の意見を伝え合うことができる工夫を行った。

- ① 話材の選定で、話し合う意欲を高める工夫
 - ・身近な事柄を話材にして話し合う、いろいろな考えが出せる話材で話し合うなど
- ② 話し合いを活発にする学習形態の工夫
 - ・一対一の対話、一対多数での対話、グループでの話し合い、学級での話し合いなど
- ③ 活発な話し合う活動によって、話し合うことの大切さや楽しさを味わわせる工夫
 - ・相手意識・目的意識をもたせる、実感としての評価の工夫など

(3) 指導の実際



【グループでの話し合い】



【グループで話し合って決めた
道具について学級の人みんなに説明】

(4) 児童の変容

- ① 話材の選定によって、みんなが自分の意見を活発に出し合い、話し合いが深まった。
- ② 学習形態を工夫することで話しやすい場となり、活発に話し合い、話し合うことの大切さを味わった。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 伝え合う力を定着させるための、系統的な年間指導計画の作成
- ② いろいろな目的のために、要点を押えたメモを取る場の設定と指導の充実

※詳細は平成16年度 研究報告書第20号【P11～P20】に掲載

実践事例 その3 [小学校道德]



夢や希望を育てる道德の授業の工夫 -構造化方式の道德授業の実践を通して-

大里村立大里南小学校教諭 土 居 徹

(1) 研究の概要

夢や希望をもつ児童を育てるために、総合単元的道德学習を構成し、構造化方式の考え方に立った道德の授業の工夫を行った。

(2) 指導上の工夫点

夢や希望をもつ児童を育てるために、次のような指導の工夫を行った。

- ① 心に響く資料を活用して、道德的価値が児童の心に結びつくメカニズムに基づいた4つの授業の型を考案した。
- ② 構造化方式のメカニズムに応じた発問づくりの工夫を行った。
- ③ 道德学習カードや心のノートを活用した道德の時間における評価の工夫を行った。

(3) 指導の実際



【主人公の道德的価値への気付きや気持ちの変容を想像する発問の様子】



【しっかり考え、生き生きと発表する様子】

(4) 児童の変容

- ① 道德性検査やアンケートの結果などから、道德的価値の自覚が深まり、道德性の発達が見られた。
- ② 自分のよさに目を向け、夢や希望をもつことの大切さに気付き、夢や希望に向かって生きていこうとする意欲が高まった。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 道德的価値が児童の心に結びつくメカニズムに基づいた4つの授業の型を考案できた。
- ② 構造化方式の考え方に立った指導過程を4つの視点でまとめることができた。
- ③ 指導（学習）と評価の一体化を図ることで、児童の道德性が発達し、夢や希望が育ってきた。
- ④ 道德の時間におけるきめ細やかな個に応じた指導を行っていきたい。
- ⑤ キャリア教育など夢や希望に直接つながる体験活動などを生かした道德の時間の工夫を行っていきたい。

※詳細は平成16年度 研究報告書第20号【P21～P30】に掲載

実践事例 その4 [小学校 教育相談]



みんなのいいところ見つけた！ -構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育の統合を通して-

糸満市立糸満南小学校教諭 古 堅 みさえ

(1) 研究の概要

児童の望ましい人間関係をはぐくむために、構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育を統合した支援の在り方について研究をすすめてきた。

(2) 指導上の工夫点

児童一人一人の望ましい人間関係をはぐくむために次のような支援の工夫を行った。

- ① 学級の実態の把握
 - ・ Q-Uアンケートやソーシャルスキル尺度の実施、分析、活用
- ② 学級の実態に即したエクササイズ（構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育の統合）の実施
 - ・ 仲間のいいとこさがし、めざせ聴き方名人、5の3のいいとこさがしなど
- ③ 意図的、計画的に集団活動の場を設定し、継続的に取り組む工夫
- ④ 毎時間のふり返りの工夫
 - ・ ふり返しシートをもとに「自他を認める気持ち」が高まるような工夫

(3) 指導の実際



【学級のよいところを見つけ喜ぶ児童】



【互いのよさを認め合うグループ発表会】

(4) 児童の変容

- ① 学級の実態に即した意図的、計画的な構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育を統合した支援を行うことで、学級満足群の児童が18%から38%へと増えた。
- ② 学級の仲間と積極的にかかわろうとする態度が育ってきた。
- ③ 毎時間の振り返りで、自分や仲間のよさを認め合うことができた。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育を統合した支援を、意図的、計画的に行うことで、互いのよさを認め合い、人間関係づくりの知識や具体的な技能が身に付き、望ましい人間関係をはぐくむことができた。
 - ② 構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育を統合した支援の仕方がわかった。
 - ③ 構成的グループエンカウンターとソーシャルスキル教育を統合した年間計画の作成と継続的な取り組みをしたい。
- ※詳細は平成16年度 研究報告書第20号P31～P40に掲載

実践事例 その5 [中学校社会]



自ら学び、自ら考える力を育てる社会科学習指導の工夫

～適切な課題を設けて行う学習と自己評価能力の育成を通して～

豊見城市立長嶺中学校教諭 松下 啓子

(1) 研究の概要

身近な地域の学習の単元を、適切な課題を設けて行う学習と自己評価能力の育成のための工夫を通して実践し、自ら学び、自ら考える力を育てていくことができた。

(2) 指導上の工夫点

自ら学び、自ら考える力を育てるために次のような工夫を行った。

① 学習の手引きの活用

- ・調べ学習のスキルを身に付けるための手引きを準備し、活用させた。

② 図書館利用の工夫

- ・図書館司書と連携して、調べ学習のための「関係する本のコーナー」を設けた。

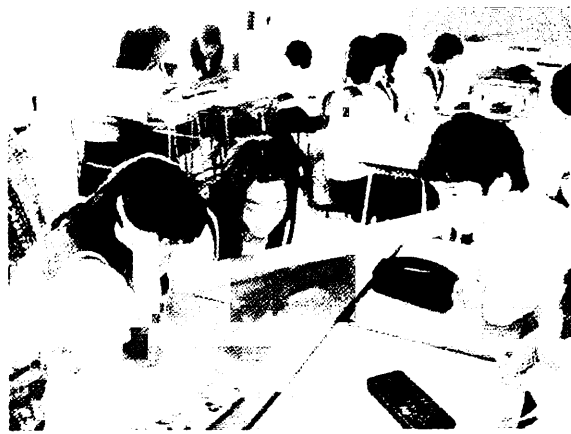
③ 自己評価・相互評価カードの活用

- ・自己評価能力を高めるために、単元終了後に活用した。

(3) 指導の実際



【調べたことを発表している様子】



【自己評価カードに記入している様子】

(4) 生徒の変容

- ①学習の手引きを活用することで、自主的に調べ学習を行えるようになってきた。
- ②自己評価カード・相互評価カードの活用により、客観的な自己評価ができるようになった。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ①評価活動の工夫によって自己評価能力が高まり、自ら学び、自ら考える力が育ってきた。
- ②自己評価能力をさらに高めるための指導・支援のあり方
- ③資料活用能力を育成するための教師の指導・支援のあり方

※詳細は平成16年度 研究報告書第20号【P41～P50】に掲載



ADHD理解と支援の在り方 —自己肯定感の育成とよりよい学級集団づくりを通して—

具志頭村立具志頭中学校教諭 上 原 淳

(1) 研究の概要

ADHDなど、特別支援の必要な生徒に対するアプローチの仕方について研究すると共に、学級活動や道徳の時間に、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキル教育を取り入れ、自己肯定感を育み、よりよい学級集団を育成するための授業実践を行った。

(2) 指導上の工夫

- ① 特別支援の生徒理解と学級の実態把握のために、Q-U検査を行った。
- ② 生徒の変容を見るため、毎時間振り返りシートを書かせた。
- ③ 自己肯定感を高める構成的グループエンカウンターの実施〈気になる自画像〉
- ④ 人間関係づくりのための、ソーシャルスキルトレーニングの実施
〈上手なあいさつの仕方・上手な聴き方・友達倍増作戦〉

(3) 指導の実際



【グループ員に対する肯定的なことばを
付箋紙に書きこむ作業の様子】



【肯定的なことばをもらって、どう感
じたのかを発表している様子】

(4) 生徒の変容

- ① Q-U検査の結果、非承認群の割合が減り、学校生活満足群の数が倍増した。
- ② 特別支援が必要な生徒は、「学級満足度」の承認得点が17から22へ、「学校生活意欲」の友人との関係が7から11へと増えた。特に「気軽に話せる友人がいる」が1から4へと増え、自分を肯定的に捉えてきていることや、友人関係も上手いきつつあることが伺えた。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① ADHDについての理解が深まり、具体的な支援の仕方がわかった。
- ② 構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキル教育を行うことで、自己肯定感が高まり、よりよい人間関係が育まれてきた。
- ③ Q-U検査で学級の実態を明らかにし、それに基づいたエクササイズをすることができた。
- ④ ADHDへの支援のため、構成的グループエンカウンター・ソーシャルスキル教育の年間計画を作成すること。
- ⑤ ADHDへの個別支援計画を実態に即し、具体的に作成する必要がある。

※詳細は平成16年度 研究報告書第20号【P51～P60】に掲載



長期研修を終えて

第 20 期教育研究員 委員長 上 原 淳

長月になり、常夏の沖縄も、朝夕は季節の変化を感じる今日この頃ですが、私達前期研究員の修了の日も近づいてきました。

4 月、期待と不安を胸に、島尻教育研究所第 20 期生として、私達 6 名は入所してきました。研究員一人一人の研究テーマは違いますが、“教育に対する情熱”“子どもたちの成長のため”との想いは一緒に半年間、互いに励まし合い、また、切磋琢磨し合ってきました。

入所当初、不安がいっぱいの中、指導講師の適切なアドバイスや先輩研究員からの叱咤激励などをいただき、本当にありがとうございました。

教師としての在るべき姿を身をもって教えてくださいました金城所長。「理論ある実践を」と、いつも温かくご指導下さった安谷屋主任指導主事。文書の構成、表現などご指導下さった甲斐指導主事。研究理論の項立て、指導案の作成、検証授業、報告書作成、発表へと納得のいくまで、幾度も幾度も検討会をもって下さり、指導していただきました。

今年は、島尻教育研究所 10 周年の節目で、記念事業が行われ私達研究員も参加させていただき改めて多くの方々に支えられていることを確認することができました。特に初代所長である宮城恒彦先生には色紙等、数々の激励をいただきご厚情に大変感謝しております。

所内研修では、「信頼される学校づくりをめざして」をテーマに所長講話があり、教師としての心構えを学びました。玉寄局長の講話「行政組合の概要」「研究員に期待するもの」では、行政と教育には密接な関係があることを改めて知り、学校への期待の大きさも感じました。その他、「教育心理検査の活用」「教育の動向」「学級経営」「カウンセリング講座」「進路指導」「書道」等、さまざまな研修があり、多くの方々から、教職に携わる者としての責任と誇り、情熱と真剣さを教示していただき、感謝の念でいっぱいです。

また所外研修での、「特殊教育諸学校視察」では、島尻養護学校で「一日体験」をさせていただき、特別支援教育への理解を深め、個に応じた指導の在り方を学ぶことができました。「沖縄の自然」では、野鳥の観察を通して、沖縄の自然のすばらしさを実感すると同時に、「自然環境を守っていかなくてはいけない。」と考えさせられました。「環境学習」では、浦添りサイクルプラザやクリーンセンターの見学があり、ゴミ問題についても深く考えさせられました。コンピュータ研修では、OCC 本社でパワーポイントを習い、発表会に生かしています。このようにいろいろな角度から貴重な体験をさせていただき、視野を大きく広げることができました。

さらにクラブ活動では、沖縄伝統の三線を習い、代表的な曲「安波節」「安里屋ユンタ」「上り口節」三曲を練習しました。（個人的に初めて三線に触れることができ、三線を弾ける楽しさを味わうことができました。）また、「安波節」を島尻教育研究所 10 周年記念祝賀会に先輩研究員と共演したことは忘れられない一コマになりました。このように研修内容も多種多様で、毎日が学びと感動の日々でした。

最後になりましたが、このような貴重な研修の機会を与えて下さった教育委員会、所属校の校長先生及び職員の皆さん、その他関係各位の皆様に厚くお礼申し上げます。



【島尻養護学校で】



【環境学習：ゴミの山】



【沖縄の自然：大里城址公園】

島尻教育研究所逍遙歌



島尻教育研究所逍遙歌

作詞 宮城恒彦
作曲 親泊明美

一 報得の流にゆるやかに
朝陽に映ゆるまびの原
指導の道を究めんと
集いしわれら意気高し

二 辿る道程 厳しけど
友の情に 涙して
明日に灯 ともさんと
語る仲間の 声やさし

三 遙かに望む 八重瀬岳
うつろふ雲は 綾なして
ぬぐりへ急ぐ 群れ鳥に
光ほのかな 宵の星

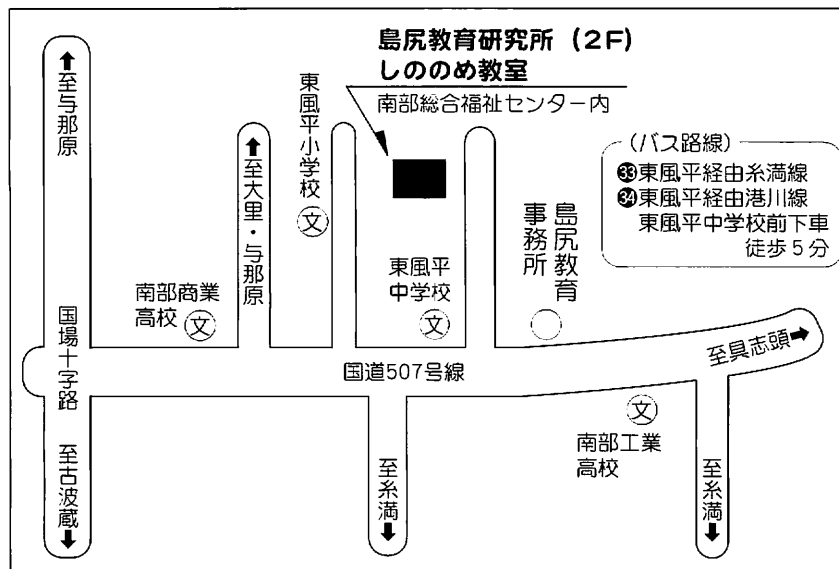
一九九六年五月十三日

東雲

所報「東雲」（しのめ）の意味するもの

「春は曙。やうやう白くなりゆく、山ぎは少し明かりて、紫立ちたる雲の細くたなびきたる」と、枕草子の巻頭に出てくる雲が東雲（しのめ）である。みるみる東の空は白んで明け方を迎える。

この名称は、本研究所を巣立ってゆく教師達の今後の活躍を期待していることと21世紀に向けて、夜明けのシンボルである東雲のような役目を果たす研究所とを意味している。なお、「東」の文字には所在地である東風平にも掛けている。



南部広域行政組合 島尻教育研究所

所長 金城弘一

〒901-0401 沖縄県島尻郡東風平町字東風平965番地

TEL 098-998-9561 FAX 098-998-9420

E-mail simaken1@southernx.ne.jp

simaken2@southernx.ne.jp